

笹原集落の紹介

八ヶ岳西麓一帯の集落では、昔ながらの暮らしの風景が残り、自然環境にとけ込んだ美しい集落の景観を見ることができる。

特に笹原集落の各家の庭先には、大きな自然石を据えた庭園がある。そこには山裾からの湧き水を引き込んだ池を設け、滝から落ちる水音を聞くことができる。

各屋敷の南東の隅には倉が置かれ、漆喰壁には凝った鏝絵が見られる。また、板倉など様々な種類の倉を見ることができる。

笹原集落は標高1100mにあり、江戸時代初期に新田として開拓された。この集落を貫く湯みち街道は、天狗岳登山口、渋温泉まで続き、道沿いには、「ため池百選」の「御射鹿池」が静かな水面をたたえている。



棒道（ぼうみち）

棒道とは、戦国時代甲斐の武田信玄と越後の上杉謙信が対戦した川中島合戦の時、最短距離になるよう「棒」のように真っすぐな道を造らせたことから、その名が付いたと言われている。

大河原汐（せぎ）と坂本養川

笹原集落の中を流れる大河原汐は、坂本養川が計画した15本余りの繰越汐の一つで、寛政四年(1792年)に完成した。

これらの汐により八ヶ岳山麓の水田化が進み、現在のような田園風景が造られた。



●の地域は板倉、こて絵が多く見られます。

所用時間 茅野駅から車で約20分
諏訪インターから車で約30分

バスの時刻表 茅野駅～渋の湯線

茅野駅発▲6:40 10:25 13:45 笹原発▲9:14 11:52 15:12

笹原着▲7:09 10:54 14:14 茅野駅着▲9:43 12:21 15:41

▲印は土、日祭日、8月13～16日運行

散策の心得

くらやこて絵、庭園は道から眺めることを原則としてください。
敷地に入るときは家人の了解を得てください。

コース案内

- ① 中心部：約40分（こて絵の番号①⑤⑥⑧⑨⑫⑯）
- ② 全体回遊：約1時間30分



糸萱集落

お問い合わせ 茅野市観光協会

TEL 0266-73-8550 FAX 0266-72-5833

くらフォーラム in 八ヶ岳

TEL/FAX 0266-78-2442 (朝倉)

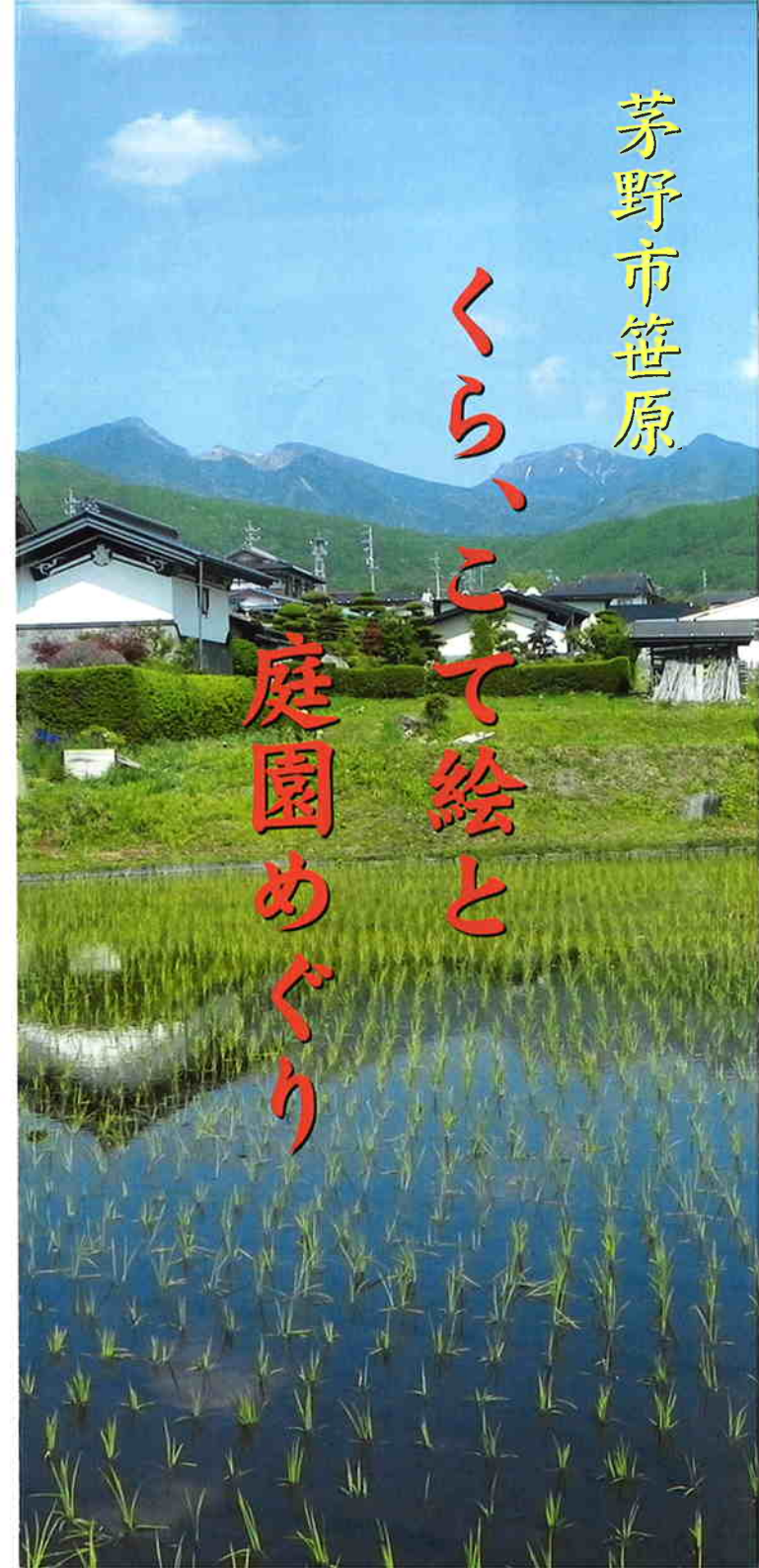
<http://www.chinonet.net/kura/>



茅野市笹原

くら、こて絵と

庭園めぐり



ハヶ岳山麓の「ドゾウ」

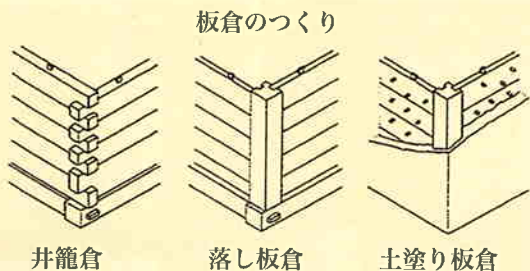
ハヶ岳山麓のクラは、山麓のカラマツやアカマツを用いた木組みのクラで、その構造の成り立ちから板倉と呼ばれている。板倉は、森林資源と関係の深い営みをもった地域の人々によって建てられてきたことで知られており、特にハヶ岳山麓の板倉は、山から切り出した木材を手斧ではつたり、大鋸（オガ）で挽いたりして形を整えた素朴な壁材が積み上げられ、荒々しい印象が特徴となっている。

壁材の組方は様々で、厚く仕上げられた壁材を「井」の字に積み上げたものは「セイロ倉」柱の間に壁材を落し込んで積み上げたものは「オトシ倉」と呼ばれている。これらの組方は用いることができる木の性質と量、製材するために使われた加工道具の特徴に影響を受けたものだと考えられ、一つの集落の中でもクラの建てられた時代ごとに異なる建て方のクラを見ることができる。

またハヶ岳山麓ではクラは板倉であっても「ドゾウ」という総称で呼ばれている。木は乾燥すると収縮するので、壁に隙間ができて穀物の収蔵環境を損ねる場合があるが、土が塗られたクラの壁は、外気の気温や湿度の変化を和らげ、室内環境を一定に保つことができるうえに火災に強い。そのため人々は板倉を土で塗り込めてドゾウ（土蔵）とすることを望んできた。

ドゾウは下地となる壁板を乾燥させ、木の楔（くさび）を打ち込み縄を垂らして下地をつくり、泥を盛りつけ粗壁にして、砂地で整える中塗りを行い、最後に漆喰を塗って仕上げられる。その過程には時間と手間、費用がかかるため、ゆっくりと数世代にわたり仕上げられた。そのためにこの地域では壁の木の組方、土の塗り方の様々なクラが残された。

(文、図 樋口貴彦)



こて絵

こて絵は、左官が鏝（こて）を用いて漆喰で浮き彫りにし、彩色して表現したものである。

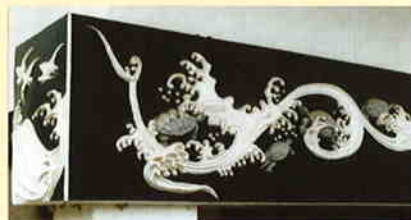
こて絵は、蔵の施主が左官に依頼したものと、左官が蔵の完成により感謝と誇りを表して作ったものがある。絵柄は様々あり、庶民の祈りや願いが込められている。

絵柄とその意味

- 「大黒」 五穀豊穰の神
- 「恵比寿」 商売繁盛の神
- 「龍」 水の神 悪霊除け
- 「鷹」 魔物除け 鷹の夢を見るとお金が儲かる
- 「虎」 魔物除け 疫病除け
- 「鶴と亀」 鶴は千年、亀は万年の不老長寿の神
- 「登り鯉」 出世祈願
- 「波とうさぎ」 波は水、うさぎは安産、多産の子孫繁栄
- その他 家紋、屋号などがある



鶴と亀



波と亀



庭園・石仏・萩屋

いけす(池)のある庭園

この地域では、コイやフナを水田で大きくし、これを庭先の池で飼い、安定的に獲って食べた。この池を「いけす」と呼び、周りに木々や草花を植え、大きな石を据えて、独特の美しい庭園を作り上げた。



火の番地藏

火事は、最も怖い物のひとつだった。笹原は茅葺きの家が多く、出火すると消火の手立てが無かったので、防火の神を祀って守護神とした。



馬頭観音

馬の無事息災を祈ったり、馬の死を悼んで供養したもの。

手引き観音

湯みちの道中に西国三十三番観音を安置し、湯治に行く人々の安全を願って建てられた。一番の如意輪観音が上の辻に安置されている。

上の辻の石碑

道祖神、六地藏、庚申塔、二十三日供養塔、南無阿弥陀仏の碑、出羽三山供養塔などが並んでいる。

萩屋（ハンヤ）

山浦では、馬や牛の冬の飼料として乾燥した草（ハギ）を貯蔵する為に建てた小屋（2間×3間位）を萩屋という。近代化と共に姿を消しつつある貴重な建物である。



至糸萱



ア



鹿狩神社



10



11



12



13



13



14



15



16



17



18

萩屋と蓼科山の眺望

ア

13

12

11

稲荷

16

10

8

9

17

御社宮司神社

稲荷神社
大きな栗の切株

稲荷神社

湯みち街道

バス停

至茅野市街



-  板倉 (せいろ)
-  板倉 (落とし)
-  土蔵 (土壁)
-  土蔵 (漆喰壁)
-  倉 (その他壁)
-  土蔵 (鏝絵 (文字等))
-  土蔵 (鏝絵 (絵図等))
-  萩屋 (茅葺屋根)
-  萩屋 (切妻屋根)
-  火の番地藏
-  社・祠
-  石仏・石碑
-  庭園、池
-  植木、生け垣

笹原集落のくらとこて絵

至白井出

